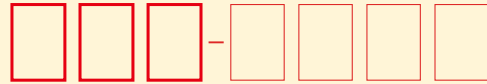


善頭エッセイ

はこだて旅便い

「今日もぷらぷら」

134



『600℃?』

最速の今年はニアピンで開花



文月 斉 (ふみつき さい)
 埼玉県出身。
 人と街、自然と文化を題材に、
 みちくさばかりの旅を続ける
 エッセイスト。
 函館、埼玉、大阪を拠点に
 旅を満喫中。

前略、変わりはないか？

暖かい四月だったね。3月下旬からの暖かさを引き継いで、新年度に入っても最高気温は軒並みふた桁台。サクラの名所五稜郭公園では4月4日にソメイヨシノが1輪咲いているのを見かけたよ。君の暮らす街でも今年が開花日、満開日ともに過去最も早かったようだけど、こちら函館も記録破りの年だった。4月14日にはこれまでの記録よりも4日早く開花宣言が出され、満開日も過去最速の20日に確認された。冬の寒さが例年になく厳しかったから、いっそう早く感じたね。

そうそう、サクラといえば「ソメイヨシノ開花600℃説」ってあるでしょ。2月になってから、毎日その日の最高気温を積算して、600℃になると開花するって説。ちよつと興味があったので函館気象台のデータを基に計算してみたんだけど、どうだったと思う？昨年2022年は4月21日に開花、そのときの積算気温は55.6℃。600℃に達したのは3日後だった。21年は600℃に達した翌日に開花(惜しい!)、20年は4日遅れで開花、19年はドンピシャリで同日に開花(ブラボー!)。ちなみにこれまで過去最速で開花した2002年と、もつとも遅かった1984年を調べてみると、どちらも開花日と600℃到達日が見事に一致。計算の結果が出た瞬間、神がかり的な力を感じてゾゾゾってしたよ。では、最速記録を更新した今年はどうだったかというところ、600度に達したのは4月の15日。一日違いのニアピン開花だった。九州あたりでは的中率は低くなるみたいだけど、函館に関してはかなり当てになる説だよ。

この結果を誰かに話したくなかったので、五稜郭公園でサクラの管理をしている樹木医さんに会いに行ってみた。ほら前にも紹介した、僕が勝手に五稜郭の主治医と呼んでいる樹木医さん。きつと園内のどこかで桜の木を診察しているだろうと訪ねてみたところ、何かのイベントか、大勢の人を連れて案内していた。少し離れた所から聞き耳を立ててみたけど、意外にも五稜郭公園の桜は健康状態の良くないものが多いらしいんだ。見た目にはなかなか分からないけど、病気や虫、キノコの菌などに冒されているものも多く、木槌で幹を叩いて、音の違いで診察する様子を披露していたよ。

もつとも、園内全ての桜が不健康なわけではなくて、中にはすこぶる健康な個体もあると紹介していた。目安になるのは一つの芽から出ている桜の花の数。サクラランボを思い浮かべると分かるけど、桜の花って一方所から数本の柄が伸びて花をつけるでしょ。木の状態が良いほど花の数も多くなるんだって。標準的なもので4個、5〜6個だと健康優良樹で、桜の名所として知られる青森県の弘前公園には7輪咲きの木がざらにあるんだってさ。もちろん五稜郭公園にも7輪咲いているものがあったよ。これからは密かに「マイ桜」として楽しむとするよ。

花の数の確認なんてマニアックな花見をしていって、随分と時間が過ぎてしまった。花見一杯ではないけれど、どこかで夕飯でも済ませて行こうと、繁華街に向って歩いていると気になるお店が出てきた。「本町おとなの和料理あき山」。風に揺れる暖簾に誘われるように店内に入ると、これが看板に偽りなしのお店だった。店の奥に続く長いカウンター。その中で白い割烹着に身を包んで包丁を握るいぶし銀の料理人。一瞬、京都の先斗町にでも来たような錯覚を覚えたよ。予約はしてなかったけど、快く案内されたカウンター席に座り、まずはビールで様子見。お隣に座る常連らしきご夫妻に運ばれてきたのは、和紙の鍋と、桜の花びらを思わせる桜色の魚の切り身。そうなんだよ、桜の咲くこの時期は、サクラマスがおいしい季節じゃないか。さつそく僕もサクラマスの味しやぶを注文。深みのあるお出汁とサクラマスとの相性が素晴らしくて、気付いたらだし汁を一滴残らず飲み干していたよ。連休はこっちに来るんですよ。葉桜を見た後にはこっちのサクラも楽しもう。日本酒付きでね。それじゃあまた。



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

さらに詳しくはWEBへ

イータックス

検索